

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	パレスチナ自治区西岸地域エルサレム県において、職業訓練・教育支援を実施し、地域をエンパワメントし、青少年の健全育成に貢献する
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(イ) 1967 年以来、長い間イスラエルの占領下にあったパレスチナは、その経済を大きくイスラエルに依存する構造に変化していった。こうした中、2000 年の第 2 次インティファダ以降、自爆テロを恐れるイスラエルにより、分離壁や検問所を通じた、人やモノの移動制限が行われ、パレスチナ経済は手足をもがれた状態になっている。パレスチナ労働者の多くがイスラエル労働市場へのアクセスを制限され、結果としてパレスチナ自治区の GDP は急激に落ち込み、高い失業率を記録し、若年層の失業率に至っては 54%となっている<sup>1</sup>。職と専門のミスマッチも、こうした若年層の失業に拍車をかけている。また、こうした移動制限は、パレスチナの主要都市を分断化し、地域の孤立化を促進する結果となっている。</p> <p>失業により、能力を発揮する場を与えられず、社会からの疎外感をあおられ、青少年は経済・精神的に非常に困難な状況に追いやられている。パレスチナコミュニティが疲弊し、脆弱なものになっていることも、青少年の育成環境の阻害につながっている。</p> <p>パレスチナの人口の 43%が 14 歳以下の子供であり、パレスチナの生産人口(15-64 歳)の 52%が 15-29 歳の若者である<sup>2</sup> ことを考えると、青少年への早急なる対応が必要とされる。加え、パレスチナ問題が未だ抜本的解決策の見えない中、将来を見据えて、現段階からの若年人口の能力開発を行うことが将来の地域の安定や、よりよい国づくりの観点からも肝要である。</p> <p>(ロ)パレスチナ西岸地域のエルサレム県にある、アルザリア村、アブディス村、アルサワフラ村は、かつては東エルサレムまで車で 10 分という立地から、エルサレムの経済文化圏の一部であった。しかし、現在では 2003 年に建設された分離壁により、東エルサレムへのアクセスが制限されてしまっている。</p> <p>かつては東エルサレム経済文化圏の一部であったからこそ、そのアクセス制限の影響はさらに大きく、経験の浅い若者は特に、労働市場では競争力が低いことも相まって、東エルサレムに職を得ていた多くが、雇用機会を失う、もしくは失業状態となっている。また、例えば、裁判所の様な公的施設や商業施設が、東エルサレム内に移動されたりと、地域経済の空洞化も進んでいる。家計の落ち込みから、かつての様に教育への支出を行うことはできなくなっており、外国援助に依存している国家予算からの、教育への振り分けにも限界があることから、教育の質の低下も生じている。加えて、この地域の公立学校では音楽や絵画といった授業は、学校のカリキュラムに含まれていない。また、分離壁建設以降、ベツレヘムやラマラといったパレスチナの主要都市へのアクセスも制限され、地域の孤立化も進んでおり、若者の健やかなる育成環境が阻害されている。</p> <p>このように、孤立・疲弊してゆく地域において、職も得られず、将来が見えない不安を感じながら暮さねばならない青少年への心理的影響は計り知れ</p>

<sup>1</sup> ILO 2009 “The situation of workers of occupied Arab territories

<sup>2</sup> ILO 2009 “The situation of workers of occupied Arab territories

<p>(3) 事業内容</p>	<p>ないにもかかわらず、心理面でのケアも不十分な状態にある。</p> <p>このプロジェクトでは、青少年を経済面・心身面で双方向から支援し、その能力の開発に努め、健全なる育成に貢献することを目的とし、(イ) 職業訓練や(ロ) ユースプログラムを含む非公式教育を提供する。また、地域主導を促進し、活性化することで、子どもや青少年の育成環境を支援できるよう(ハ) ネットワークを構築し、地域をエンパワメントする。</p> <p><u>(イ) 職業訓練</u></p> <p>失業率の高いパレスチナで、青少年たちが就職の機会を得られるように、職業訓練を実施する。パレスチナでは、サービスセクターへの就職が一番大きいため、具体的には事務処理能力の向上を目指したセクレタリー訓練と、コンピューター技術訓練を実施する。各職業訓練ともに、負担にならない程度の授業料を徴収し、訓練への参加意欲の維持と訓練自体の持続可能性を高める。セクレタリー訓練ではワード、エクセル、パワーポイント、電子メールの作成、書類の作成、ファイリングなど基本的な技術を学ぶほか、履歴書の書き方や面接指導も行う。一方コンピューター技術訓練では、コンピューターのプログラミング、グラフィックス、メンテナンス技術を学び、労働市場で競争力のある人材の育成をめざす。習熟度は定期的に確認され、適宜フォローアップされる。</p> <p><u>(ロ) 非公式教育</u></p> <p>学校教育を補完する形で、課外補習授業とユースプログラムを実施する。課外補習授業としては、特にニーズが高く、就職にも有利な英語と IT、およびアラビア語と算数のクラスを実施し、人材育成に努める。習熟度は定期的に確認される。その他に、この地域の公立学校のカリキュラムには含まれていない音楽や絵画、及び美容、菜園等のクラスをユースプログラムとして実施する。こうした活動を通じて、日本の技術の一端を紹介するなどし、子供や青少年の知的好奇心を刺激し、心の豊かさを培い、青少年の健やかなる育成を目指すと同時に、膠着したパレスチナ情勢の中、新しい道を切り開く幅広い視野と、フラストレーションを健全に発散する方法を学ぶ。非公式教育といえど、例えば絵画コンクールや音楽競技会など、習得した知識が就職に結びつく、もしくは披露・活用できる場があれば、積極的に獲得していくよう常に指導する。カウンターパートは音楽に関して、膨大な経験と専門性を有している。</p> <p><u>(ハ) ネットワーキングと地域エンパワメント</u></p> <p>地域の参画や地域住民及び外部世界との相互交流を通じ、地域社会を活性化し、青少年の世界を広げることへ寄与するとともに、健全なる育成を支援する環境づくりを目指す。具体的には、地域参画活動、ネットワーキング、そしてサマーワークショップを実施する。</p> <p>地域参画活動では、地域住民に、日々練習している音楽やダンスの成果を発表したり、若者の育成に関して話し合う場を提供する。また、地域住民と協働して、ゴミ拾いや緑化運動など地域活動を実施し、地域住民からはプロジェクトに対する支援と理解を取り付け、子どもたちには、地域に資するという公共の精神を養い、地域全体での一体感を醸成し、地域を活性化する。</p> <p>またウェブを立ち上げ、絵画などのユースプログラムの成果物を掲示し、弊団体のウェブとリンクをはることを通じて、外部世界から広くアクセスを獲得し、若者の世界観の拡大を促す。</p>
-----------------	--

	<p>近隣の青少年を招いてのサマーワークショップでは、プロジェクト対象地域の青少年を一堂に集め、遠足や、音楽、キャンプファイヤー等の活動を実施する。</p> <p>なお、上記のすべての活動を実施する上で、カウンターパートである地域 NGO に対して、当団体の他の事業地における経験を積極的に移譲してゆき、専門的アドバイスを行うことを通じて、その能力開発に貢献し、ひいては地域のエンパワメントに資することとする。また、申請書や予算書を協働して作成し、資金調達能力の向上も図る。</p>
(4) 持続発展性	<p>カウンターパートとして選定した地域 NGO はすでにこの地域での活動実績を有していることから、本事業を通じて、資金調達力を含め更なる能力開発を実現し、同じく本事業で活性化された地域住民の協力を得てプロジェクトが終了した後も、活動を実施してゆく。</p>
(5) 期待される成果と成果を測る指標	<p>(イ) <u>青少年の能力強化への貢献</u>  職業訓練や学校教育を補完する形での課外補習授業により、青少年の能力を開発・強化する。課外補習授業では青少年の学問的基礎の確立を図り、職業訓練では、技術的能力の開発を図る。こうした2本柱によって、青少年の労働市場における競争力を強化し、経済的自立の可能性を広げ、その持てる能力を発揮できる場を獲得することを目指す。また、長期的にはパレスチナ経済の自立・発展への一助となることが期待される。</p> <p>(ロ) <u>青少年の心の安定・育成への貢献</u>  歌や踊りなどの情操教育を通じて、健全なる自我を確立するとともに、自己表現の方法を学ぶことを図る。同時にユースプログラムを通じ、フラストレーションの緩和を図り、心の豊かさ・健やかさを養うとともに、子どもの権利条約第31条にもある「余暇の権利」の確保を図る。また、サマーワークショップや、ウェブ上での相互交流を通じて、他者を理解することや、価値観の多様化、視野の拡大を図る。また、ユースプログラムを通じて、日本の技術の一端を紹介し、若者の視野の拡大と、柔軟な発想を培うことに貢献する。</p> <p>(ハ) <u>ネットワーキングと地域エンパワメントへの貢献</u>  地域の参画や、外部世界と相互交流を通じて、ネットワークを強化し、地域社会を活性化し、エンパワメントの実現へ寄与する。同時に、子どもの教育を支援する環境づくりを目指す。活動を実施する中で、当団体の他の事業地における経験を積極的に地域 NGO に移譲してゆき、技術面や専門的アドバイスを行うことで、地域 NGO の能力開発に貢献し、ひいては地域のエンパワメントの一助とする。</p> <p>(イ)～(ハ)の指標  各職業訓練や非公式教育の登録者数、出席率、技術・学業習熟度、就職者数、非公式教育の成果物に現れる変化、青少年の表情・行動の変化、地域住民の各活動への参加状況（確認方法：聞き取り調査、質問表調査、試験等）</p> <p>(イ)～(ハ)の裨益者数  直接裨益者  ・職業訓練 300名（18～22歳の男女）/非公式教育 1,040（6～18歳の男女）  サマーワークショップ 80名（6～22歳の男女）/地域住民参画活動 170名（地域住民）  間接裨益者  ・地域政府・保護者・地域住民 3,000名  合計 直接裨益者 1,590名、間接裨益者 3,000名</p>